

二輪車部品の さび防ぐ塗装

タカラ産業、消費者向け

【静岡】トラック部品

製造のタカラ産業(富士市、渡辺哲史社長)は消費者向け事業に乗り出す。今月下旬をメドに二輪車部品の防さび塗装サービスを開始。耐食性や耐塩性の高い塗装を行い、年間350件の受注を目指す。企業間取引がコスト圧縮など厳しい環境にある。一般消費者を対象とした高付加価値のサービスを事業の柱に育てる。

新サービスの名称は「錆(さ)びないライダーズ」。ホイールやブレーキレバーなどの二輪車部品に、同社がトラック部品製造で導入している「カチオン電着塗装」を施す。カチオン電着塗装

とは、「エポキシ樹脂」と呼ばれる高分子の合成樹脂を使った水溶性塗料が入った槽に塗装する部品を浸し、電流を流しながら塗料を塗りつける手法だ。塗り終わった後にセ氏140度で約20分焼き固めて仕上げる。

塗装の過程で、塗料と部品が密着する形になるため耐食性や耐塩性に優れた加工を施せる。仮に塗料部分が傷ついてさびが発生しても、さびが広がりにくいため、処置しやすいのが特徴という。

実施した耐久テストによると、720時間以上塩水を噴霧してもさびが発生しなかった。一般的な塗装方法では「72〜120時間程度でさびが確認される」(渡辺社長)。基本の塗装色は黒色のみだが、ピンクや黄色など好みの色にした場合は、カチオン電着塗装で下地塗装した後、別の色を重ね塗りする。料金はホイールで1個5千円程度に設定した。